

# 寄附金募集趣意書

## 『私たちの明日を拓く、次世代放射光』

**東北が世界最先端のものづくりの拠点となり、科学技術立国日本の実現に貢献します。**

東北に未曾有の被害をもたらした東日本大震災直後の混乱の中、単なる復興ではない東北の新しい未来を目指して、東北地域の7つの国立大学が集まって「東北放射光計画」が東北復興のエンジンとして提案されました。産業界においても機運が高まる中、この計画は、東北の枠を超えて、文部科学省の「次世代放射光計画」として国家プロジェクトに成長を遂げました。この施設は、2019年3月から建設が開始されています。

当財団は、宮城県、仙台市、国立大学法人東北大学、及び一般社団法人東北経済連合会で構成される民間・地域パートナーの代表機関として、財源も含めた「官民地域パートナーシップ」により、国の主体である国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構とともに次世代放射光施設（軟X線向け高輝度3GeV級放射光源）の整備を進めています。

放射光は、物質をナノレベルで見る巨大な顕微鏡です。これまで、「低燃費タイヤ」、「携帯電話」、「燃料電池」、「インフルエンザ治療薬」などを生み出し、最先端の技術開発を支えてきました。現在、世界中で次々と新しい放射光施設の建設が始まっており、わが国においても産学から次世代放射光施設の建設を求められている状況にあります。令和の時代となった今、来たるAI・ビッグデータの時代に、我が国の未来を切り開く礎として、科学技術立国日本にはなくてはならない施設となります。

そして、この施設は、東北の産業構造の高度化もたらすとも期待されています。この施設を核として、産学の多くの研究者や研究拠点、さらには企業の生産拠点が集積し、東北が我が国そして世界の最先端のものづくりの拠点、産学共創の拠点となります。

人材育成の拠点としても、大きな役割が期待されます。この施設に子供たちや若者が集い、学び、ここから将来を担う有為な人材が羽ばたいて行くでしょう。

東日本大震災からの復興は、まだ道半ばです。また東北は、急速な人口の減少と高齢化に直面しています。当財団は、微力ながら、前記の目標を達成することで、若い世代が自ら進んでこの地に根を張り、世界に伍する日本を創っていく、そんな気概を真摯に受け止められる場を提供したいと考えています。つきましては、多くの皆様方から、是非ともこのような趣旨にご理解・ご賛同頂き、この計画を推進する当財団への、力強いご支援・ご協力を賜りたく、衷心よりここに御寄附をお願いするものです。

令和元年 6月吉日

一般財団法人光科学イノベーションセンター  
理事長 高田 昌樹